

# 下都賀管内水稲技術資料 No.6

令和4(2022)年7月26日  
下都賀農業振興事務所

## 重点ポイント

- ①早植の出穂は、昨年と同程度です。
- ②普通植は間断かん水を継続して、根の活力維持を！
- ③ほ場を見回り、いもち病の早期防除に努めましょう！
- ④カメムシ対策を行いましょ！

## 1. 気象の経過

6月20日頃から

およそ1週間、最高気温が35℃以上の日が続き、生育が進みました。7月10日以降は降雨があり、日照時間がやや少なくなったため生育の進みは穏やかになりました。

表1.小山市アメダス

	6/21~30	平年差・比	7/1~10	平年差・比	7/11~21	平年差・比
平均気温	27.6℃	+4.9℃	27.2℃	+3.1℃	25.4℃	+0.3℃
降水量	8.5mm	16%	1mm	2%	60mm	109%
日照時間	78時間	222%	64時間	165%	24時間	55%

## 2. 気象庁の1か月予報（7月21日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 07/23~08/22	
		1週目 07/23~07/29	
		2週目 07/30~08/05	
		3~4週目 08/06~08/19	
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 07/23~08/22	
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 07/23~08/22	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

平年よりも、気温が高くなる予報が出ています。  
日照時間はやや多くなる見込みです。  
**高温登熟対策に気をつけましょう！**



### 3. 早植・水稲生育診断ほ（7月20日調査）の生育調査結果

平年と比べ、草丈は高く、茎数は多く、葉齢は進み、葉色は濃い結果となっています。  
5月3日移植のコシヒカリでは、7月25日に収穫期を迎えました(昨年も7月25日)。

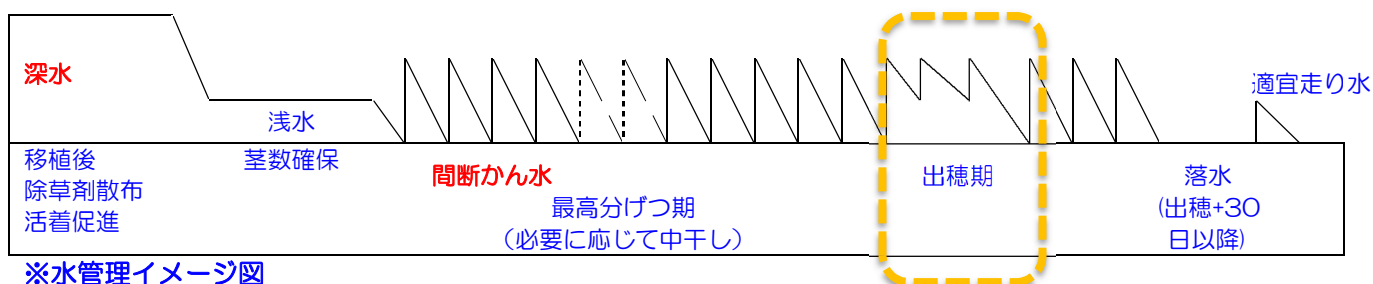
表 2.水稲生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

品種：コシヒカリ	本年 (5月3日移植)	昨年 (5月3日移植)	平年
草丈(cm)	101.7	98.3	92.4
茎数(本/m <sup>2</sup> )	541	484	439
葉 齢	13.2	12.1	12.7
葉色(葉色板)	4.1	3.2	3.3
生育診断値(葉色 ×茎数)	3,320	1,542	1,467
幼穂長(cm)	21.3	21.8	18.6

### 4. 早植の栽培管理

#### ◎水管理

間断かん水を継続し、根の活力向上に努め葉色の低下を防ぎましょう。  
出穂期は最も水を必要とする時期です！適切な水管理を行いましょう。



#### ！以下の点に注意しましょう！

- ①水が不足しないようにこまめな間断かん水をしましょう。  
⇒出穂期・開花期に水が不足すると、受精や稔実に障害が起き、粒数が減少してしまいます。
- ②登熟期に田面乾燥やひび割れが発生しないようにしましょう。  
⇒土壌水分が十分あることで、稲体の活力が維持され、玄米品質の低下を防ぐことができます。
- ③夕方から夜間のかん水でほ場の温度を下げましょう。  
⇒高温登熟による乳白米を防ぐことができます。
- ④落水時期は出穂後 30 日以降とし、ゆっくり登熟させましょう。  
⇒早期の落水は、乳白米や胴割米を増加させ、食味・品質の低下につながってしまいます。
- ⑤台風が想定される場合、やや深水として稲体を守りましょう。  
⇒台風襲来時の強風や通過後の乾燥した強風で、脱水による青枯症や白未熟粒が発生するため、水管理で防ぎましょう。

## 5. 普通植・水稻生育診断ほ（7月20日調査）の生育調査結果

昨年と比べ、草丈は同程度、茎数は少なく、葉齢はわずかに進み、葉色はかなり濃い結果となっています。出穂期は平年と同程度になる見込みです。

表 3. 水稻生育診断ほ（栃木市皆川城内町）の生育調査結果

品種：とちぎの星	本年 (5月23日移植)	昨年 (5月23日移植)
草丈(cm)	80.7	81.7
茎数(本/m <sup>2</sup> )	373	440
葉齢	11.3	11.0
葉色(葉色板)	4.4	3.5
生育診断値 (葉色×茎数)	1,628	1,548
幼穂長(cm)	0.2	0.2

## 6. 普通植の栽培管理

### ◎穂肥

日照不足で曇雨天が続くと軟弱になり倒伏しやすい稲体になる可能性があります。

穂肥時期は出穂 15 日前（幼穂長が 2cm の頃）に、10a 当たり 2～3kg 程度（BBN K-202 号、窒素量の 50%は緩効性）を施用することを基準とします。穂肥の施用時期は、**必ず幼穂長で出穂前日数を把握**し、生育診断を実施したうえで決定しましょう。

## 7. いもち病の防除について

- (1) ほ場の発生状況をよく観察し、発病を確認したら、直ちに防除を行う。いもち病に効果のある箱施用剤を使用していないほ場などは特に注意しましょう。
- (2) 上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちの発生も多くなるため、出穂前に葉いもち防除を徹底しましょう。
- (3) 葉いもちに効果のある予防剤（箱施用剤など）を施用したほ場でも発生することがあるので、発生状況を見て系統の異なる薬剤を選び防除を行いましょう。
- (4) 本田防除剤で Qol 剤（ストロビルリン系殺菌剤）を使用する場合、多発時の使用を避け、使用は最大で年 1 回としましょう。
- (5) 取り置き苗は発生源になりやすいので早急に処分しましょう。

## 斑点米カメムシ類対策を行きましょう

早植では・・・

\*穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田で見られる場合は乳熟初期（出穂期 7～10 日後）までに防除をしましょう。

防除後も見られる場合は、7～10 日間隔で 1～2 回追加で防除しましょう。

普通植では・・・

本田内の除草及び、水田周辺の草刈りを行い、カメムシ類の生息しにくい環境づくりを行きましょう。イネ科雑草やホタルイはカメムシ類を誘引します！

水田周辺の草刈りは、①水稻の出穂 2～3 週間前、②出穂期頃の 2 回行くとイネ科雑草の子実が作られないので効果的です。

（2 回除草ができない場合は、出穂期 10 日前までに除草をすませましょう！）

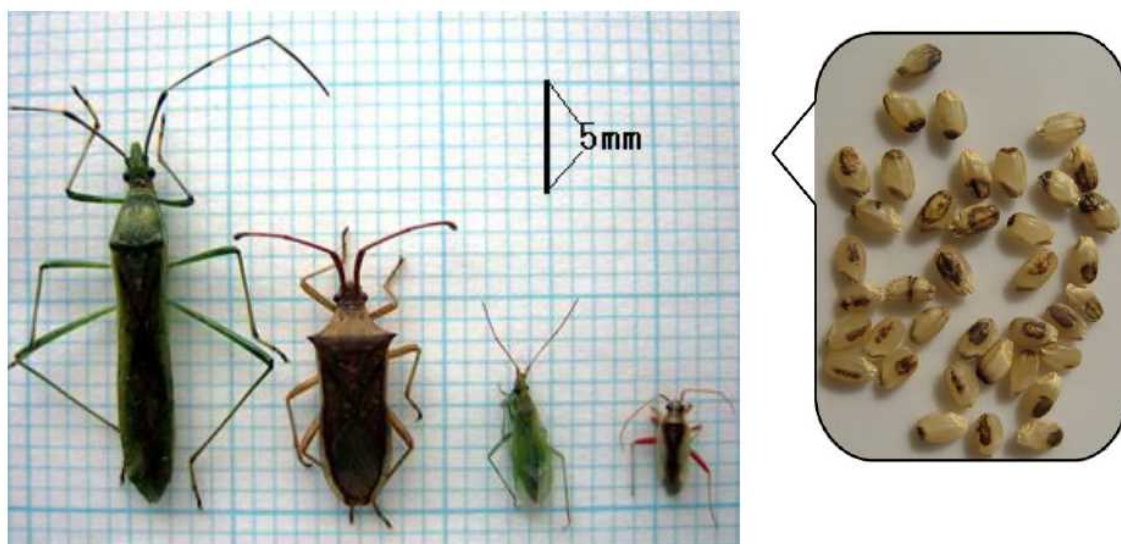


写真1 栃木県の主要発生種と、カメムシの吸汁害によって生じる斑点米  
(左からクモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ・アカヒゲホソミドリカスミカメ・アカスジカスミカメ)



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

熱中症対策の第一歩！ こまめな休憩、水分補給を行きましょう！

問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>